

弁天町駅周辺まちづくり検討会の目的

大阪市港区の東部に位置する弁天町駅は、JR 大阪環状線及び Osaka Metro 中央線の結節点であるとともに、国道 43 号と中央大通が交差する交通の要衝地となっている。また、2025 年の大阪・関西万博の開催決定により、ベイエリア＝ニシにおける玄関口としての注目度が非常に高まっており、令和3年4月に港区役所が策定した「港区エリア別活性化プラン」においても「都心と湾岸をつなぐ交通結節点としての立地を最大限に生かした都市機能の強化とにぎわい・魅力の創出を図る」こととしている。

とりわけ、2025年の万博開催時には、国内外から多くの人々が弁天町駅を利用することが予想され、駅利用者の安全性及び利便性等の向上にむけて、JR 大阪環状線及び Osaka Metro 中央線弁天町駅のリニューアル工事が実施されている。また、国道 43 号地下道のエレベーター設置工事や令和6年春オープンをめざして「港区土地区画整理記念・交流会館」の建設工事も進められている。

いま、弁天町駅とその周辺が大きく変化しようとしており、大阪のニシの玄関口にふさわしい弁天町駅周辺のまちづくりの推進が期待されている。

その一方で市岡商業高等学校跡地など、駅に近接する大規模用地が未利用の状況が続いていることに加え、幹線道路がエリアを分断しており、回遊性向上による駅周辺の一体感や周辺地域への波及効果に繋がるまちづくりの推進が課題となっている。

このような状況のもと、弁天町駅周辺まちづくりの関係者が、まちの将来像を共有し、大阪のニシの玄関口にふさわしい弁天町駅周辺のまちづくりの推進に向けて、港区役所によって「弁天町駅周辺まちづくりビジョン」を策定することとした。

本検討会は、港区役所による弁天町駅周辺のまちづくりビジョンの策定に資するため、まちづくりの将来像、未利用地の活用の方性及び回遊性向上方策に関する検討を行い、まちづくりビジョン案として取りまとめることを目的として設置するものである。